

地方通信

東北から

伊予 東 八 生

岩手縣花巻地方は、青田川で、一段歩一石四斗位の收穫がある。その西八九斗は、年貢として地主に納き上げられ、残りの五六斗が、備庫の收入だ。

昨年は地主にやる八九斗の收穫さへもない不作だった。今年でさへやつと稈を削いでみる備庫は、七割八割の有り様でやりつてゐる。收穫の全部を地主にやつても尙ほ不足するやうな状態だ。そこで收穫したまけ全部弄り上げますからあとは、まけて買れと懇願した。ところが地主の野郎共は九斗から一掃突つてまけることが出来ないとぬかしがらんだ。備庫は、不作で收穫あるときは、押られると知りつゝ、朝日新聞にサヤンと訴めて今日に及んだのだ。だが昨年は全然納めぬわけが原因がないかもその不足を上げまけろといふのに、例が不思議なんだ。肥料代も傾きも小作人の方ではまる損なのだ。

今秋備庫は、押られどうしに押られて来た。だが備庫は離伏して所れば居る際、地主の奴等は、備庫を馬鹿にしやがつて骨ガツミにシヤブろうとする。備庫が昔代から米に於ける。汗水流して働いた結果である收穫物を、土地を借りるといふ單純な理由で、收穫の大半は、小作料となつて飛んで終ふ。處が小作料丈けさへ收穫のないのに寄進せよぬかしんだもの、いくら仰人呼しの備庫だつて、カン、癩玉が、破裂して終つた。半賦なんか緊惜の前で地主に肉迫した。だがこの備庫必至の運動も地主の用心棒たる警察の壓迫でどう／＼敗けた。まあその内情儘とものへて再び起つ事だ。

岡山から

岡山支那報

○児島縣岡田村で、夏祭をメーデーに變更し大いに盛況をあげて、地主と小作人は、親子といへども一掃の交際をせよ全く階級差立の秋だ。

○美作水平社創立大會を、七月四日五日に互り美作津山町に開く可く、美作水平社同人(約一万人)集會中だ。

○日本農民組合邑久上道聯合會は、總ての運動を聯合でやつてゐるが實に素寒し勢いだ。

○漢口郡三和村大字下竹部落は、昨年末以來反當一斗五升減を要求して、強硬に談判して居たが、遂に破裂して小作地全部返却したので、地主共は、各自自作をやるとホザいたが、結局同三ヶ年賦一斗三升減で解決した。何れ三ヶ年の後には、小作人は博士重來の勢で地主に肉迫するだろう。

○真庭郡宮原村大字月田の小作人は、昨年九月以來小作料削減の運動して居たが、村長イワムル有力者、悪吏、坊主等に押されて去月丹波に遷るゝを促された。

編輯室より

讀者の要求は、多く集積され、編輯室に送られた。その要求は、本誌に送つてゐる。編輯室は、東京に於てゐる。だが各地方には、各々支店といふべきだ。

小作料の運動は、科増仕儀とするヤツが、種々の立派なやつてゐる。現はらで東京、漢口日を於ける小作運動は、決して無事に利用されないと思つた。

岡山、新田兩縣の小作人運動は何と云つても日本一だ。一掃も一掃も聯合して運動するのだら實際に運動する。

岡山縣の小作人組合が合併せんとする運動は、著々進んでゐる。今秋から、本年制らしては、何と小作料削減をうたひ、参加せんとする組合は、本岡農協を以て爲れ。

岡山県民の死は、何と云つても、無業無職の職務に起つ備庫に、備庫は備へてゐる。後進の運動も無業無職になるからだ。

運動でも、運動會でも、ある時は是非知らして置きたいものだ。大した役にも立たないだらうが、島根の地は、備庫も出陣しからぬ。島根の地は、最善の支那に知らして居る。

地方支部

- 和歌山支部 小倉 聯合
- 大分支部 永野 七一 九
- 關西支部 藤尾 吉藏
- 山口支部 山下 慎平 治
- 廣島支部 丹 悦
- 英城支部 郡司 楠峯
- 千歳支部 渡邊 精一
- 青森支部 山田 政一
- 富山支部 中島 安太郎
- 鹿児島支部 徳 池
- 福岡支部 橋本 則行
- 兵庫支部 大崎 和太郎
- 岡山支部 葉山 茂一